



第30回

2012

# ラボ・オーストラリア 青少年交流

Enjoy your homestay and school life in Australia.



「潮風の友情」私とホストのお気に入りの場所だった近所のビーチで記念撮影です。



書道の授業も和気あいあい!

私たちの住む地球のうえには多様な文化が存在しています。多様な文化に触れることは多様な価値観を知ることにつながり、より広い視野でものごとを考え行動することができるようになります。今、私たち一人ひとり地球市民としてお互いを尊重し、理解しあいながら生きていくことが求められています。



「日本文化をプレゼン！」日本文化の紹介としてMISO(おみそ)のプレゼン資料を用意して披露しました。ホストの友人のママが僕の資料を大いに気に入ってくれたので、お土産に渡してきました。一所懸命準備してきてよかった!



「誕生パーティもーエ夫」ステイ期間中に誕生日を迎えた友人のために、「Hat Party」という企画でパーティしました。参加者はみなそれぞれ色んなHATを身に付けて参加しました。そしてもちろんパーティは大盛り上がり!



ニューサウスウェールズ州

もうひとつの新しい文化の出会いを求めて開始されたラボ・オーストラリア青少年交流は、今年30年目をむかえます。これまでに900名を超えるラボっ子が現地の高校で交友関係を築き、また2000名を超えるオーストラリアの高校生が来日し、友情を育んできました。多文化のより豊かな共生を目指す国、伝統文化(アボリジニー)を尊ぶ国、そして多くの学校が日本語教育に取り組んでいる国、オーストラリアで実りある異文化体験をしよう。

## プログラムの特長

- ★ 高校生のための短期留学プログラム
- ★ オーストラリアの伝統文化&多文化体験
- ★ 日本語&日本文化プレゼンテーション体験





私とホスト、そして、ワラビー2匹の4ショットで記念撮影です♪

## プログラム概要

- ◆**高校生のための短期留学プログラム**：ホームステイを楽しみながら、キャンベラをはじめニューサウスウエールズ州にあるいくつかの高校にホストと一緒に通学します。英語の授業は大きなチャレンジになるでしょう。
- ◆**オーストラリアの伝統文化&多文化体験**：先住民アボリジニーの文化。オーストラリアでは1950年代から国を挙げて移民計画を進め、現在多くの国々から移住してきた人々が暮らしています。したがって、ホームステイ先や学校では様々な文化を持つ人々との多文化交流が待っています。
- ◆**日本語&日本文化プレゼンテーション体験**：受入れ団体は、ニューサウスウエールズ州日本語教師協会です。ニューサウスウエールズ州およびキャンベラの各高校では、日本文化および日本語教育が盛んにおこなわれています。自分を表現したり、日本の文化を紹介するスキルを向上させる最良の機会となるでしょう。

### 募・集・要・項

- 訪問期日**：2012年7月21日(土)～8月15日(水)の予定  
※7月20日は成田にて前日泊
- 参加資格**：参加時に高校生のラボ・パーティ正会員・財団特別会員
- 申込受付**：「ラボ国際交流参加申込書」に記入・捺印の上、所属チューターへご提出下さい。
- 締め切り**：2012年1月31日(火)  
(募集定員に達した時点で締め切りとさせていただきますので、予めご了承下さい)
- 参加費**：2012年1月に決定(2011年度は480,000円)  
※参加費に含まれないもの  
財団特別会員費、パスポート取得料、集合地(成田)までの交通費、国内諸経費(出発前日宿泊費、渡航手数料など)、燃油サーチャージ
- 募集人員**：30名(男子10名、女子20名 先着順)
- 交流団体**：ニューサウスウエールズ州日本語教師協会  
ニューサウスウエールズ州およびキャンベラの各協力校  
現地コーディネーター：マルコムプライス・トラベルズ  
※ホストファミリーは日本語を勉強している高校生の家庭です。

ステイ先は、中国系のお宅で、英語すら分からないのに、中国語まで！と、最初は本当に苦労しました。しかし、学校に行くと、英語、日本語、韓国語、中国語、ドイツ語、ありとあらゆる言葉を耳にして驚かされました。「あ、多民族国家ってこういうことなんだ！」って実感しました。  
オーストラリアに来て本当に良かったことは、いろんなことに挑戦することを恥ずかしがっていた自分が、恥ずかしいということに気づけたことです。私のホストは、自分の意志を相手に対してストレートに伝えていました。その姿を見たとき、私が自分がちっぽけに思えました。こっちは、自由に、けれど自分というものをしっかりと持っているなと感じました。  
(高校2年 女子)

この3週間のホームステイで、一番気を付けたことは、“TRY”と“あいさつ”の2つだった。あいさつは“Hi!”, “Hello”, “Good morinig”, “Good night”など、コミュニケーションのきっかけに毎日必ずやった。また、ホストやホストファミリーに「これ、やってみる？」と提案されたことは、基本的になんでもOKした。乗馬に挑戦したり、ベジマイト、カンガルーの肉を食べたり、ホストブラザーの通うダンススクールに参加したり、家でダンスを教えてもらったりなど、本当にたくさんのすごい経験がはじめてできた。  
(高校1年 男子)

相手の国の言葉を知ることは、相手のことを知る一つの方法だと思う。少しでも多く語ることができれば、それだけ多くの相手を知ることができて自分のことを知ってもらうことができる。それでもやはり、大切なのはSMILEであると、私はこの交流を通じて思った。ホストは彼女の友達をたくさん紹介してくれた。私は、とにかく彼らにSMILEで接しようと思った。すると、ある日の日本語の授業中「ねえ、折り紙やろう！」と誘ってきてくれる子がいた。私の名前を覚えてくれて、さらに一緒に折り紙をやろうと誘ってくるなんて！私は驚くのと同時に、SMILEの大切さと改めて感じた。  
(高校1年 女子)



学校での最後の授業。クラスメートが私たちのためにPartyを開いてくれました。みんなが作ってくれたパイやお菓子はとてもおいしかったです。

### お問い合わせ

(財)ラボ国際交流センター  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16F  
TEL.03-5324-3430